

事業のタネシート

活動地域・団体名：郡上市地域共生圏協議会

事業名称1：観光立市郡上の形成

あらすじ

本協議会は、今年度、GUJO Outdoor Weekにブースを出展した。郡上市は、夏の郡上おどりが市内の一大産業で、観光立市を表明している。コロナウイルス感染拡大予防で、多くの人が集まることや密集することを避けるために、全国の祭りが中止になった一方で、アウトドアの人気があがっている。これまで、郡上おどりを中心とした観光産業構造を成してきた市の中で、豊かな自然に恵まれたことを資源に、アウトドアを中心とした観光産業構造を作りながら、新しい関係者も巻き込みながら発展させていきたい。

スキーやラフティングなど、集客に季節変動があるアウトドアアクティビティが売り物の基地にとつての課題は年間を通じた集客で、高速交通網の発達や自家用車利用観光の定着化によるスロー現象を解消するために、市に点在する基地をつなぐ、導線の活用も課題である。また、森林系ボランティアやインストラクターは、活躍の場がないとなり手が減る負の循環になりがちで、活躍の場の創出が課題で、活躍の場が増えれば、フィールドである森林に保全価値を見出すことが期待できる。地域全体が「観光立市」の参画者として盛り上げていくためにも、集客の季節変動を是正し、経済効果を実感したい。それにより、参画者の範囲を増やし、市域の90%もある山林を、生きた形で守りたい。担い手は、山主はもちろん、林業事業者、導線を彩る地域の小売店や飲食店と商品を作る農家や畜産業者、自然体験活動を提供している郡上上山株式会社、ネイチャーガイドなどの森林系ボランティアやインストラクター、MTBのインストラクターや愛好者、環境活動家、情報収集や活動PRのためのマスコミ（CATVなど）が想定される。こうした人的・組織的資源以外には、山林に整備されている「林道」「作業道」「農道」「古道」など交通網や、郡上市の約90%を占める山林と、山林が持つ、川の水源や、森そのもの、移動するときの空気、音など体験そのものがある。取組みは、体力に自信のない人も、気軽に自転車散歩を楽しむことができる「E-MTB（電動アシスト機能付きスポーツ自転車）」を移動手段として提供したり、観光案内などのボランティアやインストラクター、沿線農家などを組織化して観光スポット（農産物販売所やビジターセンター、工房など）を設置したりすることによって導線自体をアクティビティ資源化すること。

この事業によって、地域の事業者や個人活動家が「観光」の元にエコシステムを創ることができる。⇒年間を通じた観光集客の実現（増加）⇒地域経済の活性化⇒観光資源としての山林価値の向上⇒環境保全活動への利益分配⇒環境保全活動の推進⇒観光集客の増加…という循環が期待でき、短期的成果として、観光客の増加や森林の観光資源化、仕事の増加が見込まれる。また、長期的な成果として、アウトドア観光資源として森林保全が進み、DMOへの貢献もでき、「観光立市」の実現に寄与できると考えている。

ストーリー

郡上おどりを除くと、市の観光の中心は、スキーなど、集客に季節変動があるアウトドアアクティビティで、年間を通じた集客が課題である。郡上市を訪れる観光客は、自家用車移動の人が多く、観光客はあるが、公共交通の発展に貢献していない上に、近隣の自家用車利用圏内からの客層にとどまっておき、電車移動の遠方からの観光客を誘致するためにも公共交通の充足につながる仕組みを作る必要がある。高速交通網の発達や自家用車利用観光の定着化によるスロー現象を解消するために、市に点在する基地をつなぐ、導線の活用や沿線の賦活も課題である。活躍の場がないとなり手が減る負の循環になりがちで、森の案内人などのボランティアやアウトドアアクティビティのインストラクターを維持するためには、活躍の場の創出が課題である。

地域全体が「観光立市」の参画者として盛り上げていくためにも、集客の季節変動を是正し、経済効果を実感したい。それにより、参画者の範囲を増やし、市域の90%もある山林を、生きた形で守りたい。担い手は、山主や林業事業者、自然体験活動を提供している郡上上山株式会社、森の案内人などの森林系ボランティアや、アウトドアアクティビティインストラクター、環境活動家、情報収集や活動PRのためのマスコミ（CATVなど）が想定される。こうした人的・組織的資源以外には、山林に整備されている「林道」「作業道」「農道」「古道」など交通網や、郡上市の約90%を占める山林と、山林が持つ、川の水源や、森そのもの、移動するときの空気、音など体験そのものがある。観光案内などのボランティアやインストラクター、沿線農家などを組織化して観光スポット（農産物販売所やビジターセンター、工房など）を設置したりすることによって導線自体をアクティビティ資源化することができる。

この事業によって、年間を通じたアウトドア観光集客の実現（増加）⇒地域経済の活性化⇒観光資源としての山林価値の向上⇒環境保全活動への利益分配⇒環境保全活動の推進⇒観光集客の増加⇒小売や飲食、宿泊業などへの集客効果の波及…などの循環が期待できる。

ソーシャルディスタンスが続く中、ひとりでもできるアウトドアアクティビティを活性化させることによって、短期的には、観光客の増加や森林の観光資源化、仕事の増加が見込まれる。コロナ禍で、長く、旅を控える期間が続く中、「気分転換に遠出をしたい、旅の消費で地域経済や観光業を応援したい」という層をターゲットにした「サステナブル・ツーリズム」のメニューを作れば、さらに環境への還元促進も期待できる。また、郡上市の豊かな自然の中でワーケーションを進めようという企業を得て、その社員の移動の足としてMTBを活用すれば、移動の不便さの解消だけでなく、転地効果の促進にもつながると考えられる。こうした事業拡大を積み重ねた場合の長期的な成果として、アウトドア観光資源として森林保全が進み、DMOへの貢献もでき、「観光立市」の実現に寄与できると考えている。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	観光立市 郡上 観光客の層が広がっている。 アクティビティ基地だけでなく、導線沿線も賦活し、地域全体が「観光立市」に参画できている。	
②課題	スキーなど、集客に季節変動があるアウトドアアクティビティが売り物の基地の、年間を通じた集客が課題。 市に点在するアウトドアアクティビティ基地をつなぐ、導線の活用が課題。 高速交通網の発達や自家用車利用観光の定着化によるストロー現象が課題。 森の案内人などの森林系ボランティアやインストラクター活動の場づくりが課題。 林業関係者以外が森林保全に関心を持って取り組む価値創出が課題。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域全体が「観光立市」の参画者として盛り上げていくために、 集客の季節変動の是正をしたい。 経済効果を実感したい。 参画者の範囲を増やしたい。 市域の90%もある山林を、生きた形で守りたい。	
④地域資源	山林に整備されている「林道」「作業道」「農道」「古道」など交通網。 スキー場などのアウトドアアクティビティ基地。 郡上市の約90%を占める山林と、山林が持つ、川の水源地、森そのもの、移動するときの空気、音など体験そのもの。 林業関係者。 森の案内人などの森林系ボランティアやインストラクター。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	観光案内などのボランティアや、インストラクターの組織化。	
⑥担い手 (Who)	山主。林業事業者。郡上里山株式会社。農家。畜産業者。地域の小売店や飲食店。ネイチャーガイドなどの森林系ボランティアやインストラクター。インストラクターや愛好者。環境活動家。情報収集や活動PRのためのマスコミ (CATVなど)。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	年間を通じたアウトドア観光集客の実現 (増加) ⇒ 地域経済の活性化 ⇒ 観光資源としての山林価値の向上 ⇒ 環境保全活動への利益分配 ⇒ 環境保全活動の推進 ⇒ 観光集客の増加 ⇒ 小売や飲食、宿泊業などへの集客効果の波及…	林業家や山主 投資もしくは参加企業 ネイチャーガイドの講師 各地域の観光業者
⑧事業で生じる成果	短期的な成果：観光客の増加。森林の観光資源化。仕事の増加。 地域の事業者や個人活動家による観光エコシステム創生。 長期的な成果：森林保全。アウトドア領域からのDMOへの貢献。観光立市の実現。	